

入居企業紹介

その95

SICに新しく入居された企業をご紹介します。

SIC-1 Desk[®]

Kimono World Life 株式会社

「ふだん着物で国際コミュニケーション！」



左から代表取締役 齋藤 優見さん
取締役副社長 園山 玄史さん

【代表プロフィール】

Kimono World Life株式会社

代表取締役 齋藤優見(さいとう ゆみ)さん

川崎市生まれ 相模原市育ち、相模原市在住。

趣味は和太鼓と歩くこと。小学校5年生の時から和太鼓を始め、現在も所属している「相模 天満太鼓」は小学生から70歳代まで老若男女、多国籍なメンバーで構成されていて、齋藤さん自身は今では4種類の太鼓の演奏が出来るそうです。そして、歩くことが好きで、1駅2駅は普通に歩く。齋藤さんにとって色々な事を考える大切な時間がそこにはあるようです。自然の中を歩く事も大好きなOutdoor派。

【起業しようと思ったきっかけは?】

南米コスタリカでの留学後、齋藤さんは2006年にスペインへ渡り着物が好きだった祖母のことを思いながら、日本から持参していた着物を着てバルセロナの町を歩いた。彼女の着物姿に人々の視線が集まった。知人達に着物を紹介し口コミで評判になり、着物を好きな人たちが集まって着方などを教えたりする「Kimono club Barcelona」を設立し現在も代表を務めている。

2010年、日本に帰国した齋藤さんは国際交流と着物を繋ぐ事業を模索しながらDesk[®]へ入会、ビジネスプランを練った。そして、県内で行われた社会起業プラン・コンペティションで入賞しこれを機に本格的な起業の決意に至る。

齋藤さんの脳裏からはたくさんのアイデアが湧いてくるそうです。スペインへリサイクル着物の輸出・販売の事業を検討していた時、それを形に変える方法を助言したのはDesk[®]と同じフロアで健康心理士をされていた現在同社の取締役副社長の園山玄史(そのやまひろふみ)さんでした。園山さんは貿易実務の経験もある「ふだん着物」の良き理解者でもあったのです。

“ふだん着物”を世界へ発信し普及させ、世界でそして日本国内でふだん着としての着物を浸透させる為に、昨年2011年8月「Kimono World Life 株式会社」を設立。

【事業紹介】

現在、尽力しているのは“ふだん着物”を国際コミュニケーションのツールとした「日本文化とコミュニケーション」のセミナー・ワークショップ事業です。

海外留学、海外出張、海外赴任など海外の方との交流を経験した人は「日本文化をもっと事前に学んでおけばよかった。」と自責の念に駆られることが多い。外国で私達日本人は外国人であり、日本のアイデンティティーをもった『日本の代表』として彼らの目には映っています。当然、日本のことは何でも知っているものと思っています。

国際コミュニケーションの能力向上を図る上で大切なのは、言葉だけではなく、むしろ日本人としての素養を身に付けること事も肝要です。こうした意識を持ち日本文化の象徴でもある着物を通して国際の立場で活躍してほしいと願う同社は、教育機関を中心に講演やセミナーも行っています。

その他に、着物の輸出販売、海外における現地人による着付け教室、着物を使ったイベント企画・運営を行っています。イベント企画では大手旅行社との「着物国際交流TOUR」などを手掛ける一方、成人の日には着付けお直しコーナー「着付けSOS」で成人の皆さんのいい日作りのお手伝い等、地域イベントでの活動も行っています。

【これからの夢は?】

Kimono World Lifeの経営理念は、“「着物」が「世界」の「生活」でも気兼ねなく楽しめる世を創造します。”である。日本人がもっと着物に親しみを持ち日本人としての誇りを胸に抱いて、当たり前のように日本のことを語れるようになること、そして、着物が世界の生活の中に浸透していくことを目標としています。

A・F・T色彩コーディネーター(文部科学省認定)である齋藤さんと、健康心理士(日本健康心理学会認定)である園山さんは、それぞれが得意とする分野を持ち寄り、人の強み(個人の能力)や満足感といったポジティブな側面に焦点を当てながら、協同して日本の着物文化を世界に知らしめようとしています。

*健康心理士:健康の維持・増進、疾病予防、健康的な生活習慣の形成をめざして、その実践に必要な知識と技術を備えた人材を認定する日本健康心理学会の資格。

Kimono World Life株式会社

SIC-1 Desk[®]

お問い合わせはWebサイトから <http://kimonoworldlife.com/>



入居企業ピックアップ

●今月の掲載記事紹介

10月の新聞紙上に掲載された企業をご紹介します。
ご紹介する記事は、SIC-1と2に掲示していますので、
どうぞご覧ください。

- 10月1日(月) **株式会社オプトデザイン**
日本経済新聞 「中小の技術、韓国が熱視線」
10月20日(土) **アムコテクノロジー株式会社**
相模経済新聞 「環境事業で10年」

入居企業の皆様へご案内

11月の販売予定日 in SIC-1・2

かわせみの家 <http://kawaseminoie.jimdo.com/>



なくなり次第
終了です。

手作りクッキーや
手作りケーキを販売します

8日(木)
営業時間 11:30 ~ 13:00

カリメーラ <http://e-sagami.jp/karime-ra>
自家製天然酵母パンを販売します



注意!!
木曜日です

2日(金)
9日(金)
16日(金)
22日(木)
30日(金)

営業時間 11:45 ~ 13:00

なくなり次第終了です。

避難訓練のお知らせ

12月5日(水) 午後避難訓練を予定しております。
詳細は後日ご案内いたします。

ご案内

南西フォーラム分科会

1st 宇宙科学研究会

モノづくり企業のための

Society for the study of Space Science

テーマ

火星飛行機の研究と研究現場でのニーズについて

講師

宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究所
准教授 大山 聖 (おおやま あきら) 氏

日時: 11月29日(木) 時間: 18:00-20:00

相模原市立産業会館 (17:30より開場)

定員 50名 入場無料 (3階 大研修室)

~詳しくはSICホームページをご覧ください~

貸ロッカー空いています

SIC-1 1階階段下の倉庫に設置していますロッカーのご案内です。
大きさ: 横約88cm × 奥行約40cm × 高さ約100cm
(場所により多少大きさの違いがございます。)

使用料金: 1ヶ月 2625円 (消費税込)

空き状況: 4個

ご希望の方は、SIC-1 生井(内線1116)まで
お問い合わせください。

入居者交流会のお知らせ

日時: 12月12日(水) 詳細は後日ご案内いたします。
時間: 15:00 ~ みなさまのご参加を
場所: サンエール お待ちしております!

2012年11月

【今月の経営スケジュール (3月期決算の会社参考)】

経理: 10月源泉税・地方税納付、給与計算・試算表作成
税務: 中間・予定申告

SICのWEBサイトでもご覧頂けます。

「カリメーラ」さん出店日



「かわせみの家」さん出店日

日	月	火	水	木	金	土
28	29	30	31	1 会議室1月分 予約受付開始 女性力発揮セミナー ミドルコース①	2	3
4	5 SIC-2 自動ドア点検	6 南西フォーラム *SIC-1 エレベーター点検	7	8	9	10 SIC-1 床面定期清掃
11	12	13	14 SIC-2 空気環境測定	15 SIC-2 ガラス清掃 女性力発揮セミナー ミドルコース②	16	17 YB経営塾 子どもワークショップ
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29 宇宙科学研究会 女性力発揮セミナー ミドルコース③	30	1

* エレベーター点検

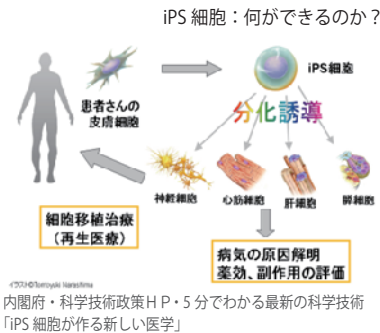
9:30~11:00の間はご利用になれません。

お問い合わせは 生井(内線1116)まで

ノーベル賞・山中伸弥教授から学ぶ「3つの考え方」

2012年10月8日。2012年のノーベル生理学・医学賞が発表され、京都大学教授の山中伸弥 iPS細胞研究所長(50)が受賞した。授賞理由は、「細胞や器官の進化に関する我々の理解に革命を起こした」と説明された。「山中教授は、06年に世界で初めてマウスの皮膚細胞から iPS細胞を作った。iPS細胞は受精卵のように体のどんな部分にも再び育つ。皮膚などにいったん変化した細胞が、生まれた頃に逆戻りする」という発見は生物学の常識を覆した。細胞の時計の針を巻き戻せることを示した「初期化(リプログラミング)」と呼ぶ研究成果は「まるでタイムマシン」と世界を驚かせた。生命の萌芽とされる受精卵を壊して作る胚性幹細胞(ES細胞)と違い、倫理面の問題からも特に欧米社会で高く評価された。」

山中教授は、記者会見で「心の底から思ったのは、名目上は山中伸弥ともう一人の受賞になっているが、受賞できたのは、日本という国に支えられたから。まさにこれは日本という国が受賞した賞だと感じている。感想を一言でいうと感謝しかない」「一日も早く医学応用しないといけないという気持ちでいっぱいだ」と語った。熱い心が伝わるコメントに感動した。私は、山中教授のインタビューへの真摯な態度、明かされた研究のエピソードなど山中教授の個人的な魅力を感じ、3つの優れた考え方に共感した。以下、紹介したい。



内閣府・科学技術政策HP・5分でわかる最新の科学技術「iPS細胞が作る新しい医学」

1.薬理学の実験で学んだ3つの教訓。①科学は驚きに満ちている。「科学の面白さは、予想通りの結果にはならない。」②新薬、新治療法では、予想外のことが起きる。「必ず事前に動物実験を行って、安全性や効果を十分確かめておかなければならない。」③先生のいうことをあまり信じてはならない。「今の教科書にはAはBであると書いてあっても、10年後の教科書にはAはCであると書いてあるというのは科学の世界ではしばしばあります。先生の考え方をそのまま信じ込まず、真っ白な気持ちで現象に向きあうこと。先入観を持たないこと。」

2.成功する秘訣VW。「Vision」と「Work hard」。「研究者として成功する秘訣はVWだ。VWさえ実行すれば、君たちは必ず成功する。研究者にとってだけでなく人生にとっても大切なのはVWだ。VWは魔法の言葉だ。」グラッドストーン研究所のロバート・メイリー所長の教えだ。長期の目標とハードワーク。研究者として、人間として成功するには、どちらも必要である。

3.「人間万事塞翁が馬」(じんかんばんじ さいおうがうま) 山中教授は、好きな言葉の一つとして紹介している。「昔、中国北方の塞(とりで)近くに住む占いの巧みな老人(塞翁)の馬が、胡の地方に逃げ、人々が気の毒がると、老人は「そのうちに福が来る」と言った。やがて、その馬は胡の駿馬を連れて戻ってきた。人々が祝うと、今度は「これは不幸の元になるだろう」と言った。すると胡の馬に乗った老人の息子は、落馬して足の骨を折ってしまった。人々がそれを見舞うと、老人は「これが幸福の基になるだろう」と言った。一年後、胡軍が攻め込んできて戦争となり若者たちはほとんどが戦死した。しかし足を折った老人の息子は、兵役を免れたため、戦死しなくて済んだという話に基づく。」(故事ことわざ辞典)「人間万事塞翁が馬」の「人間(じんかん)」とは日本で言う人間(にんげん)の事ではなく、世間(せけん)。「塞翁」というのは、城塞に住んでいる「翁(おきな)=老人」という意味。「城塞に住む老人の馬がもたらした運命は、福から禍(わざわい)へ、また禍(わざわい)から福へと人生に変化をもたらした。まったく禍福というのは予測できないものである。」という事。山中教授の人生も、「人間万事塞翁が馬」と思える出来事の連続である。常に、ポジティブな行動・思考と危機管理のバランスをとっている。

これらの考え方を基本にして、失敗はあったけれど、教えを守り、研究の喜びを知り、努力を重ね、決してあきらめず、良く考え、ビジョンを掲げ、協力してくれる人を作り、巻き込み、広い視野を持ち、ハードワークに耐え、一歩一歩成果を積み上げていく。学ぶべき考え方である。

<参考>
 ・NHKスペシャル「山中伸弥 iPS細胞革命」(10月21日放送)
 ・YouTube・教育イベント高校生特別授業「京都賞 高校フォーラム」(2010年11月)
 ・演題「人間万事塞翁が馬」主催：財団法人稲盛財団、京都大学
 ・「山中伸弥先生に、人生とiPS細胞について聞いてみた」山中伸弥著 講談社 2012/10
 ・日本経済新聞 2012/10/8 WEB版

私の好きな漢字

【株式会社さがみはら産業創造センター 岳田 真由美】

このコラムでは、SIC入居企業スタッフの皆様を紹介していますが、9月号から、まだ「SICかわらばん」に登場していないSICスタッフをインタビューを交えながらご紹介しています。今月は、岳田さんです。

岳田さんは、SICで手掛けている南西フォーラムを中心に、IMのアシスタントをしています。「SICスタッフの一員になってまだ日も浅く教えていただくことばかりですが、一日も早く信頼されるスタッフになれるよう頑張ります。」と話す岳田さん。

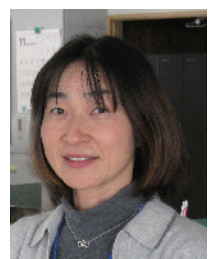
好きな漢字は「優」。「すぐれる」という読みもありますが、「やさしい」と読むこの漢字が好きです。「優」という漢字は、悲しみ悩んでいる(憂いている)人の横に立つ人を表し、人の気持ちがわかる優しい人を表現しているとの一説があり、好きになりました。私自身、日頃から人に優しくと思いつつも、子供の事になるとついつい怒ってしまったり日々反省の繰り返しですが、相手を思いやる心は常に大切にしたいと思えます。



そんな優しい雰囲気の中嶋さんですが、プライベートでは、外に出て走ったり、歩いたり、お子さんと遊んだり体を動かすことが好きで、週1回フラメンコ教室にも通って汗を流しているそうです。

昨年は、「世界の音楽を学ぶ」という授業の一環で、

小学生の前で生のフラメンコを踊る小学校の授業ボランティアに参加し、大変貴重な体験をしましたとのこと。今後もこのようなご縁があればボランティア等にも参加したいと考えているそうです。



SIC-1の事務室で、9月から一緒に仕事をしています。

証言で綴る SIC の歴史



株式会社クリエイト
代表取締役 小俣 晃之

今月号から、数回に分けて、小俣 晃之さんに、SIC創業当時を振り返り、エピソードなどを熱く語っていただきます。小俣さんは、当時相模原市の職員としてSIC誕生に深くかかわったメンバーのお一人です。

SIC（相模原市）を退職してから、早いもので12年が経ちました。現在は新潟県長岡市で研磨を中心とした部品加工業、研磨機、切削機、研削機、洗浄機などの装置や周辺の消耗品の販売を商いとしております。不景気や数々の世界的な危機の影響を受けながらも多くの人に支えられ事業を続けています。ご支援いただきました皆様には厚く御礼申し上げます。

さて、今回、SICの立ち上げ期について熱く語ってくれというオファーをいただきました。普段物忘れも増えてきた今日この頃ですが、12年たった今でも、当時のことは、不思議と覚えています。たくさんの想いが今でもありますが、今回は少しお伝えしたいと思います。

SICは、相模原市経済部（当時）が、「新たな産業を創出するために何ができるのか・・・」ということを実際に考え、もがいた上に始まったプロジェクトの一つでした。当時の経済部は個性あふれる人間であふれ、個々の様々な取り組みもあふれていました。縄張り争いのような様子でもあり、武功をたてたい武士の集といった感じでしょうか。しかし、それは私欲ではなく、産業の発展のために何とかしたいという【職員の熱き想い】のぶつかり合いでした。（少しは、自分がやったという自己満足もあったと思いますが・・・）

スタートは14年前。世の中がミレニアムに湧いている時期でした。私はどっぷりつかっていた融資制度改革に目途もつき、引き継ぐ後輩も与えられ、かなり自由な立場になりました。相模原市が【新たな産業の創出】というテーマに向かっていました。何かやれることはないかと、いろいろな勉強会に参加し情報を集めていました。その中で、融資事務の中で技術面でのアドバイスをいただいていた技術士の佐藤善治先生から、産学連携が一つのキーワードであり、訪問する気があるなら紹介すると東京大学と慶応大学の先生を紹介されました。

何度か訪問し、市内企業発展のため大学研究室のテーマ発表会を開催しました。この発表会をきっかけに、ソフト中心の産業支援事業の充実が必要不可欠であるという方向性を見出していきました。他方、当時課題となっていた西橋本地域の再開発事業の中で、産学連携を推し進めるためのラボを建設するという検討開始のきっかけにもなったと思います。これらがSICの始まりです。

（次号に続く）

山本のめし屋レポート

タアニャントテェン

台湾軽食「大娘的店」

JR相模原駅南口から徒歩12分にある台湾軽食「大娘的店」のご紹介です。

店名の「大娘的店（タアニャントテェン）」とは「おばさんの店」という意味だそうです。今回は第一回SIC台湾ビジネスマッチングに参加し、台湾でのビジネスが拡大している株式会社クラフトの関社長をはじめ総勢9名で賑やかにやってきました。今回は特別メニューをお願いして、小籠包と腸詰の他にカラスミ、イカ団子、海鮮鍋、焼ビーフン、中華おこわ、マンゴー杏仁豆腐などいっぱい食べてきました。どれも美味しく台湾を堪能しました。他にも通常メニューの肉燥乾麺、嘉義雞肉飯など安くてボリュームのある美味しい台湾料理がいっぱいあります。お友達、ご家族、同僚と楽しく台湾料理と台湾を楽しんでください。



小籠包



左から、腸詰、鍋、あわび、杏仁デザート

■住所 〒252-0216 相模原市中央区清新 7-1-1 ■Tel 042-756-2440 ■営業時間 18:00～24:00（ランチもあります。） ■定休日 月曜日

編集後記

日本全国から紅葉の便りが届く季節になりました。四季の変化を感じると日本に住んでよかったなあと思います。これから雪に閉ざされる北国の紅葉は山が一面赤く染まり息を飲むほどの美しさですが、落葉樹や照葉樹が入り混じった山が緑、赤、黄色と色とりどりになる景色も素敵ですし、都会の街路樹が染まる風景も好きです。皆様のお気に入りの秋の風景は何でしょうか？ 横山

★ご意見・ご感想をお待ちしています。（株）さがみはら産業創造センター（SIC） 〒252-0131 相模原市緑区西橋本 5-4-21
電話：042-770-9119 FAX:042-770-9077 ホームページ：http://www.sic-sagamihara.jp E-mail: koho@sic-sagamihara.jp